

プログラムの概要

消化器内科は光学医療診療部、肝疾患センターも担当しております。消化器疾患は最も頻度の高い疾病であり、常時約50名の患者さんが入院されています。症例は多彩で、いわゆるcommon diseaseから、一般病院では経験することの少ない稀な疾患まで受け入れています。内科的な全身管理はもとより、高度な専門的医療まで幅広い研修が可能です。後期研修の一環として、希望により国内有数の医療機関と連携した研修を行っています。研修医一人ひとりの希望を考慮いたしますので、是非ご相談下さい。

アピールポイント

最先端の技術・設備・環境による診療

最新の診療機器はすべて整備し最先端の診断・治療を行っております。特に消化管癌の内視鏡治療、肝癌のラジオ波治療、胆膵癌のステント治療など消化器癌の内科的治療に力を入れ全国有数の実績を上げております。また医局は完全電子化されており、研修医を含めてすべてのドクターのデスク上に診療端末が設置されいつでも電子カルテにアクセスして診療を行うことが可能な最高の医局環境を実現しておりこのような医局は全国にもほとんどありません。

トップクラスの消化器内科研修

さらに研修面では大学病院での診療・研究に加えて、山梨県立中央病院、武蔵野赤十字病院、虎ノ門病院、亀田総合病院、佐久総合病院、手稲恵仁会病院、国立がんセンターを初めとする全国の有力病院での消化器内科研修を積極的に行っており、どこを起点にしてもトップクラスの診療・研究・研修は可能であり私たちはそれを皆さんに提供いたします。

全国トップレベルの診療・研究成果

大学病院の役割・魅力は市中病院では全く不可能な最先端医療と研究の両者を実践できることです。私たちは厚生労働省研究班の主任研究者施設(ウイルス性肝炎の病態に応じたウイルス側因子の解明と治療応用)として全国の大学と共に最先端の設備と技術で研究を推進しております。また診療に基づく臨床研究にも力を入れており、最大規模の学会である日本消化器関連学会週間では、毎年のように全国の80大学医学部および1000以上ある臨床研修病院のなかでトップ10に入る研究発表を行っております。山梨大学医学部は地方都市にある歴史の浅い新設医科大学ですが、若い我々が力を合わせれば歴史のある大都市の大学病院や有名病院を圧倒する成果が出せるのです。

親身・団結・切磋・挑戦

最後に、私たちは「患者さんに親身、仲間と団結、自分を切磋、常に挑戦」をモットーとして掲げております。医局の仲間は競争相手ではありません。医局では患者さんのために常にお互いに助け合いながら自分自身を切磋琢磨すべく全員が活動しており、人間的にもすばらしい集団です。もちろん研修医もこの集団の一員となり層の厚い指導医と共に熱意をもって患者診療にあたります。一人でも多くの向上心のある新しい仲間が私たちの医局に加わってくれることを期待しております。

具体的な研修内容

研修期間

1年目は、内科研修の中で4週間、消化管疾患、胆膵疾患および肝疾患の診療グループのいずれかに所属して患者を担当し、研修を行います。2年目は自由選択期間で異なるグループを選択して、消化器全般にわたり研修するなど個々の希望する専門研修やキャリアプランに合わせた選択も可能です。

研修内容

消化管、胆道・膵、肝臓の各チームに所属し、常時、入院患者数名の主治医として診療に参加します。診療に際しては、専任の指導医がついてマンツーマンで親身に指導し、指示、検査、処置、治療のすべての診療を担います。また、種々のカンファランスを通じて専門医療についても研修します。6週あたり約10-15例の担当医となり、チーム全体では、より多数の症例を経験することになります。これを通じて、内科あるいは消化器領域の専門医受験に必要な研修を積むことができます。

